

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 19 日現在

機関番号：32641

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K01871

研究課題名（和文）アジア新興企業の先進国企業に対するキャッチアップにかかる実証研究

研究課題名（英文）Empirical study of Asian emerging firms' catch-up with advanced countries' firms

研究代表者

赤羽 淳（Akabane, Jun）

中央大学・経済学部・教授

研究者番号：30636486

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：研究期間に以下の学会報告および成果物を発表することができた。赤羽淳．(2019)．鴻海集團の経営戦略と液晶パネル事業の変遷 経済学論纂（中央大学）第60巻第2号 赤羽淳（2020）アジア新興企業のテイクオーバー型キャッチアップ戦略--タイ・サミットによるオギハラ買収の事例を通じて-- 経済論叢，194(2)，37-54.赤羽淳．(2022)．アジア後発企業のテイクオーバー型キャッチアップ 鴻海のシャープ買収の事例を通じて．アジア研究，68(2)，1-26.

研究成果の学術的意義や社会的意義

アジア新興国企業のキャッチアップにかかる研究は2000年代から主に地域研究者の手によって行われてきたが、当職は科研費の研究資金を通じて複数国・複数業種にまたがる新興国企業の分析を行い、企業国籍間の比較や業種間の比較を行うことができた。これは単独の地域研究者では行えない研究領域であり、一定の学術的、社会的意義をもたらすことができたと考える。研究期間の後半は、いわゆるDXが新興国企業のキャッチアップに果たす役割という点に問題関心がシフトし、現在遂行中の基盤研究C「製品のデジタル化・IoT化に伴う製品のサービスシステム化にかかる実証分析」につなげることができた。

研究成果の概要（英文）：The following conference reports and deliverables were published during the research period. Akabane, Jun. (2019). Management Strategy of Hon Hai Group and Transition of LCD Panel Business (Doctoral dissertation, Chuo University). Akabane, Jun. (2020). < Papers> Takeover Catch-up Strategies of Asian Emerging Companies: The Case of Thai Summit's Acquisition of Ogihara. Journal of Economic Studies, 194(2), 37-54. Akabane, Jun. (2022). The Takeover Catch-up of Asian Latecomers: The Case of Hon Hai's Acquisition of Sharp. Asian Studies, 68(2), 1-26. Akabane, J. (2021). Study of the Global Market Portfolio of the Big Seven Automakers. The Journal of Economics, 62(1・2・3), 1-23.

研究分野：経営学

キーワード：産業分析 アジア新興国 キャッチアップ エレクトロニクス 自動車

様式 C-19、F-19-1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

アジア新興企業は、1970年代から80年代にかけて、日本などの先進国企業から技術支援を受けることで操業を開始したが、2000年代以降、韓国・台湾企業が主にエレクトロニクス分野で先進国企業に対してキャッチアップを果たした。具体的にはサムスン電子、台湾積体回路、メディアテック、エイヌスなどであり、これらの企業は地域研究の枠組みで個別に事例研究されてきた(吉岡, 2010; 川上, 2012; 佐藤, 2016; 岸本, 2017)。しかし事例間の比較などは行われておらず、申請者が先行研究を改めて全体的に俯瞰したところ、いずれも後発性利益に基づいた独自のビジネスモデルを採用し、それを適宜変革させながら外部環境の変化に柔軟に適応してキャッチアップを果たした、という共通点が見いだされた。

一方で、2008年のリーマンショックを境に、アジア新興企業が先進国企業を買収してキャッチアップを追求するパターンが増えてきている。本研究では、このタイプのキャッチアップに注目し、その背景とメカニズムを解明する。本研究の学術的特長は、アジア新興企業のキャッチアップをテイクオーバー型をはじめいくつかの類型に分類し、各類型の特性を探るとともに、相互の関係も検証することである。

2. 研究の目的

本研究は、アジア新興企業の先進国企業に対するキャッチアップをバリューチェーン(以下、VC)上で捉える。VCには各段階の付加価値の大きさによってスマイルカーブが描けるが、先進国企業はVCの川上から川下までを自社で操業する垂直統合型のビジネスモデルが想定される。これに対しアジア新興企業のキャッチアップは、付加価値の低い組み立て工程から始まり、徐々に事業領域を川上の研究開発や川下の流通販売に伸ばしていくプロセスで捉えられる。

もちろんプロセスの進捗は企業ごとに異なるが、本研究で解明する問題は、キャッチアップのタイプによってVC上の延伸の程度やスピードがどのように異なるか、また相違の背景は何か、そして全体としてキャッチアップはどのように体系化できるかである。研究期間中に明らかにすることとして二つの達成課題を設定した。ひとつめは、キャッチアップのパターンによって、VC上の延伸パターンでいかなる差異があるか? またキャッチアップの変数となるアジア新興企業の後発性の利益、市場環境の変化、先進国企業の経営戦略と競争力、産業特性はなにか? を探ることである。二つ目は、キャッチアップの類型は独立したものなのか、あるいは時間軸やアジア新興企業の発展段階によって、ある類型から別の類型に変化していく可能性はないのか? を探ることである。

以上の達成課題を解明することで、二つの波及効果が期待された。一つ目は、アジア新興企業のキャッチアッププロセスが体系化できれば、これまで地域研究としてバラバラに研究されてきた事例を俯瞰する枠組みが構築されることである。二つ目は、個別事例を俯瞰する枠組みができれば、アジア以外の新興企業の研究も推進されるし、キャッチアップされた先進国企業の分析も同枠組みで可能となることである。

本研究の独創性はキャッチアップの分類によって、アジア新興企業のキャッチアップの概念を拡張することにある。また創造性は、15社程度の中量規模のインデプス型事例研究を行うとともに、各事例の相互比較や全体を俯瞰する分析も行い、類型ごとの普遍的特性と相互関係を明らかにすることにある。こうした本研究のアプローチは、アジア新興企業のキャッチアップパターンの体系化を試みるものであり、特定企業の個別研究にとどまる先行研究の到達点を大きく上回る。企業のキャッチアップ過程を描き出して、相互比較したり全体を俯瞰したりする分析を行う。

3. 研究の方法

研究対象は製造業に絞る。アジア新興企業のキャッチアップは製造業の事例が多いこと、サービス業は製造業とVCが異なり横断的な分析が困難なことが理由である。以下は事例分析の対象企業である。

タイ・サミット(自動車部品関連製造)

台湾・鴻海(エレクトロニクス部品、ICT製品の受託生産)

研究方法は、先行研究サーベイ、インデプス型事例研究、相互比較・俯瞰分析である。先行研究サーベイは、日本経営学会誌、組織科学、国際ビジネス研究年報、アジア経営研究、アジア研究、**Developing Economies**、**Journal of International Management** など内外の学術雑誌をサーベイし、新興国企業研究の動向と到達点を把握する。

インデプス型事例研究は、現地新聞・ビジネス雑誌調査と聞き取り調査を行う。まずキャッチアップを果たした台湾、韓国、中国企業15社程度にかかる現地新聞・ビジネス雑誌記事をサーベイし、各企業のキャッチアップの時系列プロセスを詳細に分析する。次に、対象企業もしくは関係機関を直接訪問し、ビジネスモデルや経営戦略の変遷、先進国企業に対するベンチマーク、市場環境変化への対応、組織の意思決定方法について聞き取り調査を行う。相互比較・

俯瞰分析では、事例研究結果にもとづき、バリューチェーン上で各事例のポジショニング分析を行う

4. 研究成果

研究期間中、以下の学会報告および成果物を発表することができた。

< 学会報告 >

アジア新興企業の日本企業に対する M&A 戦略 タイ・サミットによるオギハラ買収の事例を通じて 赤羽 淳, 2019 年度アジア政経学会秋季大会プログラム 2019 年 11 月 30 日 アジア政経学会

Study of the Global Market Portfolio of the Big Seven Automakers
Jun Akabane, 2021 Annual Meeting of the Japan Academy of Business Administration Free theme session Sep. 4th 2021 年 9 月 4 日

< 論文 >

赤羽淳 (2019). 鴻海集團の経営戦略と液晶パネル事業の変遷 (Doctoral dissertation, Chuo University).

Akabane, J. (2021). Study of the Global Market Portfolio of the Big Seven Automakers. The Journal of Economics, 62(1・2・3), 1-23.

赤羽淳 (2020) アジア新興企業のテイクオーバー型キャッチアップ戦略--タイ・サミットによるオギハラ買収の事例を通じて--。経済論叢, 194(2), 37-54.

赤羽淳. (2022). アジア後発企業のテイクオーバー型キャッチアップ--鴻海のシャープ買収の事例を通じて。アジア研究, 68(2), 1-26.

参考文献

吉岡英美. (2010). 韓国の工業化と半導体産業: 世界市場におけるサムスン電子の発展. 有斐閣.
川上桃子. (2012). 圧縮された産業発展: 台湾ノートパソコン企業の成長メカニズム. 日本評論社.
佐藤幸人. (2016). 台湾半導体産業の発展における後発性と革新性. アジア経済, 57(3), 50-81.
岸本千佳司. (2017). 台湾半導体企業の競争戦略: 戦略の進化と能力構築. 日本評論社

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 Jun Akabane	4. 巻 62
2. 論文標題 Study of the Global Market Portfolio of the Big Seven Automakers	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 経済学論纂	6. 最初と最後の頁 1-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 赤羽淳	4. 巻 194
2. 論文標題 アジア新興企業のテイクオーバー型キャッチアップ戦略 タイ・サミットによるオギハラ買収の事例を通じて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 経済論叢	6. 最初と最後の頁 37-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14989/262290	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 赤羽 淳	4. 巻 68
2. 論文標題 アジア後発企業のテイクオーバー型キャッチアップ 鴻海のシャープ買収の事例を通じて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アジア研究	6. 最初と最後の頁 1～26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11479/asianstudies.68.2_1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 赤羽淳	4. 巻 60
2. 論文標題 鴻海集團の経営戦略と液晶パネル事業の変遷	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 経済学論纂	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 Jun Akabane
2. 発表標題 Study of the Global Market Portfolio of the Big Seven Automakers
3. 学会等名 2021 Annual Meeting of the Japan Academy of Business Administration Free theme session Sep. 4th
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 赤羽淳
2. 発表標題 アジア新興企業の日本企業に対するM&A戦略 タイ・サミットによるオギハラ買収の事例を通じて
3. 学会等名 アジア政経学会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>京都大学学術情報リポジトリ https://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/handle/2433/262290</p>

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担 者	井上 隆一郎	多摩大学・総合研究所・客員教授	
	(Inoue Ryuichirou)		
	(70438076)	(32695)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------